

目的 近年の日本の洋風化した住宅の中では、多くの家具の使用がみられるようになり、室内への関心は、住宅の個性化、自分のアイデンティティを表わす場として、高まりをみせているといえる。戦後、日本の住宅の洋風化に大きな影響を与えたものにアメリカの住宅があり、その室内と家具様式の変遷をたどることは、洋風住宅における室内装飾への認識を得るとともに、今日の日本の住宅の洋風化を考察する上での一助になると思われる。今回は、アメリカ合衆国の独立から19世紀半までの時代を中心に報告する。

方法 Sherrill Whiton 著「Interior Design and Decoration」、Jean Taylor Federico 著「Clues to American Furniture」、A. Friedman, J. F. Pile, F. Wilson 共著「Interior Design」、Genevieve Fernandez 著「American Traditional」、鍵和田務著「家具の歴史く西洋」、その他、においてアメリカの室内装飾史について記述された部分の考察と分析。

結果 独立戦争後、アメリカはイギリスから政治的・経済的独立を果したが、イギリスの芸術への影響は続き、室内装飾と家具様式には、アダム兄弟、ハップルホワイト、シェルトンの影響がみられた。18世紀末のフランス革命は、フランス貴族の亡命とともにフランスの家具を主として南部にもたらした。そして、19世紀の初頭には、アンペール様式がアメリカにも影響を及ぼした。この様式は、当時の古代ギリシャ・ローマへの回帰とも呼応するものであった。また、中産階級の勃興とともに良質の家具の需要が増して、アメリカでの家具製作者の発展がみられた。ニューヨークのダンカン・ファイフは当時のアメリカを代表する家具作家であり、ヨーロッパの家具の影響を受けながら傑出した作品を残した。